

水防災に関する情報の入手方法

【地上デジタル放送】

身近に河川情報を入手し、適切な避難行動に役立ててもらうために、放送局と協力して地上デジタルテレビのデータ放送による河川情報の提供を行っています。

【XRAIN(XバンドMPレーダー)】

中部地方整備局では、ゲリラ豪雨、局所的集中豪雨対策として、従来の広域レーダに加え、より早く、より詳細に降雨状況観測できる、XバンドMPレーダー雨量計の観測情報をインターネットで配信しています。

<http://www.river.go.jp/xbandradar/>



【川の防災情報】

近年頻発している大雨・集中豪雨による水害、土砂災害時の避難勧告や迅速・的確な避難等に役立てて頂くため、「雨量」「河川の水位」「洪水予警報」等の情報をリアルタイムで提供しています。

<http://www.river.go.jp/>

[http://i.river.go.jp/（携帯版）](http://i.river.go.jp/)



【庄内川河川情報】

庄内川の「雨量」「河川の水位」「CCTVカメラ画像」等の情報をリアルタイムで提供しています。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/kasen/web/index.html>

[http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/kasen/i-mode/top.htm（携帯版）](http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/kasen/i-mode/top.htm)



【きずなネット防災情報】

名古屋市内の「避難勧告」「避難準備情報」等、および消防・防災お役立ち情報をメールでお届けします。

m.saigai@cep.jp (空メールを送信し、返信されるメールで登録)

又は、右のQRコードから空メールを送信し、返信されるメールで登録



【みずから守る防災情報メールサービス（愛知県）】

愛知県内の大雨、洪水、土砂災害などの防災情報を携帯電話・スマートフォンにメールでお知らせします。

ml-entry@mail.kasen-owari.jp (空メールを送信し、返信されるメールで登録)

又は、右のQRコードから空メールを送信し、返信されるメールで登録



【ぎふ川と道のアラームメール（岐阜県）】

岐阜県内の大雨、洪水の情報をメールでお知らせします。

t-gifu@sg-m.jp (空メールを送信し、返信されるメールで登録)

又は、右のQRコードから空メールを送信し、返信されるメールで登録



庄内川流域水防災情報評議会 事務局

国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所

〒462-0052 名古屋市北区福德町 5-52 TEL 052-914-6711

ホームページアドレス <http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/>

※水害に対する危機感を迅速かつ的確に共有していくため、関係機関と河川管理者が共有すべき情報の内容、手段等について討議し、近年の情報通信技術の進展などを踏まえつつ具体的な情報共有のあり方について整理することを目的として平成23年6月に設置。
(参加団体：名古屋市、瀬戸市、春日井市、清須市、北名古屋市、あま市、豊山町、大治町、多治見市、瑞浪市、恵那市、土岐市、岐阜県、愛知県、国土交通省中部地方整備局、国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所)

庄内川水防災フォーラム

～近年の豪雨災害を踏まえて～

【開催報告】



平成 26 年 1 月

庄内川流域水防災情報評議会
国土交通省中部地方整備局

「庄内川水防災フォーラム」

～近年の豪雨災害を踏まえて～

1月10日(金)、名古屋市千種区にある今池ガスビル9階の今池ガスホールにおいて、「庄内川水防災フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、平成23年の台風第15号や近年の集中豪雨などの災害を踏まえ、私たちはこれまでの災害から何を学び何をすべきなのか、そしてこれらの水災害から自らを守るためにどうすれば良いのかについて討議すること目的とするもので、中部圏の企業や行政の防災担当者、一般の方々など165名が参加しました。

●開催概要

日 時： 平成 26 年 1 月 10 日 (金) 14:00 ~ 17:00

主 催： 庄内川流域水防災情報評議会

(名古屋市、瀬戸市、春日井市、清須市、北名古屋市、あま市、豊山町、大治町、多治見市、瑞浪市、恵那市、土岐市、)
岐阜県、愛知県、国土交通省中部地方整備局、庄内川河川事務所

後 援： 中部地区自然災害科学資料センター・水防災セミナー

協 力： 一般社団法人中部地域づくり協会

●プログラム

1.主催者挨拶

国土交通省中部地方整備局長 八鍬 隆



我が国は自然災害に対しまして大変脆弱な国土条件であり、近年も大規模な豪雨災害が頻発しております。

名古屋市におきましても、東海豪雨や最近の集中豪雨などにより都市型水害対策への課題が浮き彫りになりました。

このような状況を踏まえ、国と地域住民の方々が一体となった防災対策がますます重要になり、地域の持つ全ての力を結集し、地域の安全を守る必要があると考えています。

このフォーラムでは、私たちが水防災のために何を学び、何をすべきなのか、また自ら守るためにどうすればよいのか、各分野の学識者の方々からヒントをいただき考えてゆきたいと思います。

2.基調講演 「今後の治水・水防災の方向性」

名古屋大学大学院教授 辻本 哲郎



この地域は、伊勢湾台風など、歴史的に水災害を経験してきました。そこから半世紀の間に、治水事業によって被害が減少しましたが、2000年の都市型水害として注目された東海豪雨では、ダムが機能しなくなり、堤防が壊れ、我々が住んでいるところまで水が浸入してきた経験してしまいました。

それから近年まで、日本のみならず世界各地で大型台風・ハリケーンによる災害が多発しました。その中で私たちは、水災害にはさまざまな形態があり、これらに対してそれぞれどのようにして対応しなければいけないのかということを議論しなければなりません。

とくに都市の水害に対する脆弱性について、避難の方法、氾濫による湛水の対応など、急激な現象を発生する激しい災害に対して対応を考えていくことが重要です。

2000年の東海豪雨の後、庄内川流域では激特事業により河川改修し、整備計画をもとに20年～30年かけて川をより質の高いものにし、市町のほうでも雨水排除や避難指示に必要な発令基準の明確化など、実施してきました。

大きな台風に対して、そこで寝ていれば翌朝、安全に起きられるという防災インフラをつくることではなく、いかに災害を克服するかが重要になってきています。今、どれだけの脆弱さが残っていて、何をやらなければならないのか、TNT(東海ネールランド高潮・洪水地域協議会)で議論しています。今後は、公的な機関が自助・共助をサポートするとともに様々な能力を持った人が、住民との連携の中で何をすべきかを考えいかなければなりません。

3.パネルディスカッション

●コーディネーター

名古屋大学大学院教授 辻本 哲郎

●パネリスト

NPO法人レスキューストックヤード代表理事

元NHK災害・気象センター長

名城大学人間学部教授

名古屋市消防局防災・危機管理監

国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所長

栗田 暢之
小嶋 富男
水尾 衣里
三輪 弘光
高橋 伸輔



●平成23年台風15号および最近の集中豪雨の概要説明【高橋所長】

●東海豪雨、平成23年台風第15号による被災を振り返り、課題を整理し解決に向けた方向性とは。

【三 輪 氏】・河川改修や貯留施設の設置。デジタル同報無線の整備、災害対策支援情報ネットワークの高度化。

・その他の伝達方法の検討。避難所運営訓練の実施・検証。

【小 嶋 氏】・必要のある人に避難情報が伝わっていなかった。アリティーのある情報をルールを持って伝えられるかが課題。

・自治体体制での相互応援協定制度などの強化が必要。

【水 尾 氏】・危険地域は日常的に過去の災害で学んだ事をビジュアルで伝えて行く必要がある。

・出来るだけ被害が少ないところで、まちづくりを開発していく指導が必要。

【栗 田 氏】・危険地域なのに住環境が水害を無視したつくりとなっている。過去の災害の知恵が働いていない。大都会独特の孤立化に対する、地域ぐるみの取り組みが必要。

・地域毎の細かい内容と住民情報を網羅した、手づくりハザードマップの作成。行政と共に防災意識向上への取り組み。

【高橋所長】・東海豪雨の後に、激特事業にて川底の掘削や築堤の実施。ハザードマップ作成のための浸水想定区域図の提供。
・今後は、避難行動に直結するようなハザードマップの作成。浸水想定区域図の見直し。



辻本哲郎氏



水尾衣里氏



小嶋富男氏



栗田暢之氏



三輪弘光氏



高橋伸輔

●今後、被害を軽減するために、まちづくり、市民生活に求められること

【三 輪 氏】貯留槽対応の継続。一時的に滞在される方への災害情報の伝達。携帯電話などへの緊急速報メール配信の実施。

【栗 田 氏】企業・学生も交え、災害時の細かな対応の検討。若者への防災への関心度の浸透や危険性の伝授。危険が迫ってきた際の逃げる判断(トリガー)の基準検討。

【小 嶋 氏】社会の仕組みを、トヨタシステムを参考にした災害に備えられる社会システムへの検討。

【水 尾 氏】自分の地域の危ないところをよく知る。人間のつくるものには限界があることを理解し謙虚な気持ちで建築・土木側は臨む。地域を守るために、伝統・言い伝えなど、歴史を参考にする。

【高橋所長】水防法改正に伴う地下街などの更なる対策への取組み。時間軸にのっとった発災前の事前情報伝達の検討。地元の建設業者との連携。

●自分の職務・能力から今後、何ができると考えているか。

【三 輪 氏】より身近な防災(我が事感)を目指して「まるごとまちごとハザードマップ」事業の推進と想定浸水深シールの配布。

【栗 田 氏】多くの方々が防災に対して考えてくれる場面をつくっていくため、行政と協力した啓発活動の実施。

【小 嶋 氏】水害に対して、身近な危険情報の提供(危険の見える化)への対応検討。住んでいる人、または居合わせた人に対する避難への意識改革。

【水 尾 氏】災害時の対応、過去の教訓などのリスクコミュニケーションの伝授。

【高橋所長】自治体の方々とも連携して事前の対応を中心とした最先端の災害への取り組みができるようにする。

●辻本氏まとめ

パネリストの方々の発言を聞いて、大きく2点が重要だと感じました。

1) 災害に備え、時系列的にそれぞれ(行政、企業、一般市民など)が行う内容について整理することが必要

2) 避難勧告の出し方や避難支援の仕方についてさらに整理することが必要

このような意見を参考に、災害時に、技術や得意などを活用して自分や人のために何ができるかを、本日を機会に考えていただければ幸いです。

パネル展示

ロビーでは、東海豪雨から近年の水災害に関する当時の被災状況や国土交通省の活動内容などのパネル展示を行なうとともに、パソコンを使ったXバンドレーダーの実演などを行いました。

